

望月大臣との気候変動に関する意見交換会における
伊藤元重経済財政諮問会議民間議員の発言概要

※発言内容には意見交換会後のぶら下がり会見の内容も含まれます。

日時:平成27年9月16日17:00~17:40(於:環境省大臣室)

- 経済全体の活力と環境対応との関係は重要であるが、社会のビジョンに関係してくるため、現実にも動いている外交交渉や日本にとっての課題を踏まえ、経済学者としてビジョンづくりの議論に参加していきたい。
- 最近の新しい経済学の一つである行動経済学によれば、人々が省エネをする理由として、①金銭的な動機、②社会全体が良くなるという社会的な動機、③正しいことをしているとの道徳的動機、④みんながやっているからという群衆的な動機、が挙げられる。最後の群衆的な動機は大事なことで、どうやって社会全体の雰囲気形成するかが重要。一つ一つの政策も大事だが、ビジョンや社会観などみんなが納得できるものが必要ではないか。
- 企業も真面目に考えている。かつての自動車排ガス規制への対応のように、「大きな流れ」ができれば一気に動くのではないか。
- 最近、「健康銘柄」が注目を集めているが、環境面で良い効果を上げている企業を評価し、投資に結び付けることもあるのではないか。
- 経済産業省の電力システム改革の委員会の座長を務めていたが、電力システム改革の成果を活用することも重要。デマンドレスポンスなど、供給側ではなく需要側からの調整が大事になってくる。
- 気候変動問題に対するアプローチとしては、大きく分けて二つあると考える。一つは、エンジニアリングアプローチで、製造プロセスの改善や製品の性能向上について計画的に進めるアプローチで、大事なものだが、それだけで良いのか考える必要がある。もう一つは、エコノミックアプローチで、市場メカニズムの活用である。環境税や排出量取引といったカーボンプライシングの政策が重要だ。今、5年後、10年後の時点で重さが違って来るかもしれないが、エンジニアリングアプローチとエコノミックアプローチの両方をどのように上手く使っていくのか、しっかり議論をしていく必要がある。